



秋田県立男鹿海洋高等学校 中期ビジョン（5 か年計画）

【令和 8 年度～令和 12 年度】

I 本校が目指す姿

① スクール・ミッション

「男鹿に学んで世界に羽ばたく生徒の育成」を目指す学校

② スクール・ポリシー

（1）グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）

普通科

地域に根ざした特色ある教育活動を通して、豊かな人間性を備え、地域の発展に寄与する創造的な人材を育てます。

水産科

水産分野の新しい技術に対応した地域産業の担い手を育成するため、水産・海洋、食品に関する基礎的・基本的な知識や技術の習得を図るとともに、新エネルギー産業に関わる企業等との連携による先進的・実践的な学習を通して、地域や社会の健全で持続的な発展に貢献する人材を育てます。

（2）カリキュラム・ポリシー（本校の学び）

普通科

近隣の教育・研究機関や産業界と連携し、探究的・体験的な学習活動を通して、思考力・表現力・創造力など、課題解決のための実践的な学習と自己のキャリア形成を意識した幅広い教養を身に付けた人材を育成します。

水産科

海洋科では、海洋資源の管理・活用、船舶の運航管理や港湾産業等に関する知識と技術、食品科学科では、食品の製造・流通や安全・衛生管理に関する知識と技術を習得し、それらを専門的・実践的に活用する能力と社会人になっても学び続ける態度を身に付け、水産・海洋分野及び食品関連分野で活躍できる人材を育成します。

（3）アドミッション・ポリシー（求める生徒像）

ア 専門的な知識と技術の習得に主体的かつ協働的に取り組み、自己を高める意欲のある生徒

イ 社会貢献意欲にあふれ、地域の課題に関心をもち、粘り強く探究活動に取り組む生徒

ウ 部活動において責任感をもち、積極的に取り組む意欲のある生徒

II スクール・ポリシーを踏まえた5年間の取組

① 現状と課題

本校は、県内唯一の水産科を有する高校であり、「男鹿に学んで世界に羽ばたく生徒の育成」という教育目標を掲げながら、男鹿で学んだ知識や技術を基に、男鹿の海と繋がるグローバルな世界の舞台で活躍できる人材を育てていきます。

この目標は、入学者数の減少という喫緊の課題と向き合いながら、質の高い高等学校教育を維持するために、ここでしか学べないカリキュラム編成と魅力ある学校づくりを進めることで、本校教育の根幹である地域産業・海洋産業との強固な連携を築き、海上職、食産業、そして新エネルギー産業を支える人材を育成するという決意を表しています。

その基盤として、令和6年4月に、世界標準の安全性と技術を提供する洋上風力発電向け訓練センター「風と海の学校 あきた」が校舎内に併設され、操船シミュレーターを授業で活用するなど、新エネルギー産業を体感できる学びが進められています。

さらに、本校が抱える課題解決に向け、令和11年4月には秋田県立男鹿工業高等学校と統合することが決定しており、令和8年度から令和10年度までの3年間では、伝統を継承しつつ未来への針路を定めるための準備期間と位置づけています。令和11年度に開校する統合校では、全国初となる水産科と工業科の大学科を超えたくくり募集を開始し、産学官連携による先端技術に対応した特色ある教育活動を展開し、県内はもとより、全国から生徒が集まる魅力ある学校となるよう、学校設定教科「男鹿の地域資源」を設定するなど、地域の教育資源を活かしながら発展的に統合することを目指しています。

② 具体的な取組

- (1) 大手海運会社等と連携・協力し、グリーンビジネス産業で活躍できる人材育成に向けた実践的なカリキュラムを編成し、国内最先端の操船シミュレーター、溶接シミュレーター、実習船等、最新のICT技術を活用した授業を継続・拡大します。
- (2) 食品製造技術を活かした商品開発を行うとともに、地域の企業との連携を強化し、地域の人的・物的資源を有効活用できる実践的な教育活動を展開します。
- (3) 企業や大学、地元自治体等と連携して進める学校設定教科「男鹿の地域資源」を設定し、全生徒が新エネルギーや環境問題等について体系的な学びを推進します。
- (4) 職業観・勤労観の育成と個に応じたキャリア形成を重視し、地域の企業等と連携してインターンシップや現場実習等の充実を図りながら、地元への理解を深め、進路実現のため、各種資格取得等に積極的に挑戦する態度を育成します。
- (5) 地域を担う人材を育成するため、男鹿の風土を活かした学びを展開し、「男鹿地域産学官連携プロジェクト」を一層推進し、地域課題の解決を目指す探究学習を推進するとともに、生徒が主体的に活躍できる場を設定し、生徒会や部活動、各種コンテストなどに積極的に参加させます。